

市民と議会の意見交換会

報告書

令和5年5月27日（土）開催



I	市民と議会の意見交換会の概要	1
II	テーマごとの質疑・意見【要旨】	2
III	参加者アンケートの結果	43

長野市議会

I 市民と議会の意見交換会の概要

- 1 主催 長野市議会（意見交換会実行委員会）
- 2 日時 令和5年5月27日（土） 午前の部 午前10時～正午
午後の部 午後1時30分～3時30分
- 3 場所 長野市役所第一庁舎7階 第一・二委員会室
長野市役所第二庁舎10階 講堂
- 4 各テーマ別意見交換
テーマ1 「災害から自分たちの命を守るために ～ 日常から備えておくこと～」 【災害対策等調査研究 特別委員会】

テーマ2 「利用しやすい公共交通について考えよう」 【公共交通対策調査研究 特別委員会】

テーマ3 「気づいていない長野市の魅力」 【観光戦略調査研究 特別委員会】

テーマ4 「長野上田間の水道事業の広域化」 【水道事業広域化調査研究 特別委員会】
- 5 参加者 意見交換会に開催形式を変更して以降、最多の58名の市民等の皆様にご参加いただきました。そのうちの5名の方がオンラインでの参加でした。
託児所はお一人利用され、手話通訳のご利用はありませんでした。

特別委員会ごとにテーマを決めた意見交換会形式での開催は、今年度で5回目となります。また、昨年度からオンラインを併用した開催となりました。参加者からのご意見をお聞きし、市政に反映させていくことに重きをおいた運営としています。

各テーマ別会場の運営は、司会、記録など、各特別委員会の委員が務めました。

Ⅱ テーマごとの質疑・意見【要旨】

意見交換会で出された質疑・意見、それに対する今後の対応について報告します。質疑・意見は要約してあります。

テーマ 1

災害から自分たちの命を守るために ～ 日常から備えておくこと ～

【災害対策等調査研究 特別委員会】

参加者：17名（うちオンライン参加者3名）

出席議員：◎鈴木洋一 ○西脇かおる 佐藤久美子 青木敏明 小泉一真
北澤哲也 小泉栄正 倉野立人
【◎委員長 ○副委員長】



参加者①【三輪地区】（オンライン）

- ・普段から行政・社協・民間NPOの三者連携に携わっており、平時からのコミュニケーションが必要であると令和元年東日本台風の際に実感した。
- ・社協でも取り組んでいる医療的ケア児や災害時に地域で一番困る人に対して、それぞれ何ができるか発信していくことが必要ではないか。支え合わなければならないと問題意識はあっても何をしたらよいか見えないので三者連携の視点で情報提供をしてもらいたい。

小泉一真委員

- ・地域防災計画の改定でボランティア活動の環境整備が具体化している。
- ・被災者からはボランティアに来て欲しいとは言い出し難い。行政がニーズをつかみに行く必要があると考えている。

参加者②【芹田地区】

- ・区長会だけでは災害対応できない。地域のパワーを結集し新たな自主防災組織を発足させた。多様な団体（行政連絡区・福祉団体・消防団・水利組合・学校・商工会・医療機関等）で組織している。来年度、行政連絡区・企業・団体別に、それぞれが自分のところのコミュニティタイムラインを作成する予定。
- ・一時避難場所の確保が課題だが、行政の施設が活用しきれていない。学校はあるが、例えばビッグハットは物資の集積所としての役割が優先になっている。事業所は、営業時間外に一時避難所としての受入れが難しいため、行政の施設に協力してほしい。
- ・市の災害時の避難行動要支援者のモデル事業は対象を絞って行っているが、地区で100人を超える要支援者をどのように支援するか。「声をかけろ」と言うが「声をかけてもらったら困る」との反応もあり、誰がどういう手段で救助したらよいか課題。行政がリーダーシップを発揮してほしい。

参加者③【松代地区】

- ・令和元年東日本台風災害で蛭川が越水し大きな被害を受けた。5月23日、蛭川の排水機場の試運転調査で、ポンプ2台のうち1台が故障、発電機2台のうち1台が故障している。県と市で協議をして、全ての機械が使えるようにしてもらいたい。
- ・令和元年東日本台風災害の際、水門の閉鎖については連絡がなかった。水門閉鎖のフローチャートはあるが、もっとシンプルにしてほしい。早く情報を伝達できる仕組みづくりが重要になる。
- ・西田川排水機場は更新工事に入るが、排水機場は市、堤防は県と所管が違

うため連携を取って施設整備を行ってほしい。

参加者④【吉田地区】

- 今日のテーマは「命を守る」ということだが資料をみると、個人の避難対策に偏って見える。
- 令和元年東日本台風では死者2名、災害関連死の方が多数。避難後の人々の命を守るという視点が必要。命の灯を消さない取組が見られない。
- 災害関連死は防げると思っている。避難所の環境整備、在宅避難者への支援、障害者など弱者への支援に対する議論が見えない。行政の手が届かないところは民間の手で、こぼれ落ちそうな命を救う議論が必要である。
- 避難した後の生活再建や暮らしについて災害報告書に記述がない。



佐藤久美子委員

- 令和元年東日本台風の際に「ペットのために避難所へ行けなかった」との声が多かった。ペットの同行避難について保健所との連携や訓練が必要と提案した経緯もある。
- 災害では助かったが、施設の転院などで体調を崩して亡くなる方があり、災害から4年経つが、精神的な立ち直りはこれからだと委員会でもかなり議論した。
- 一時避難所の確保について、長沼地区には高層ビルがなく、ヤマト運輸と協定書を締結し、令和元年東日本台風の際、実際に屋上に避難した。いざというとき、要支援者をどう避難させるか話し合いが重要。今後も協議を続ける。
- 排水機場も含め、情報の共有化が大事。

小泉一真委員

- ・災害関連死については同様の問題意識を持っている。どのような状況で災害関連死に至ったかという情報については、自治体間で情報共有するという回答はもらっている。個人情報ということもあり、議会での検証は難しい。

参加者④【吉田地区】

- ・災害関連死について、どういう形でお亡くなりになったかの背景は公表されている、次に同様なことがあったときに参考になる。どのような状況で亡くなったのか情報共有すべきである。
- ・避難所でも安心して避難生活できる環境の構築、災害対策と避難所対策は一連の流れの中にある。助かった命を失うことのないように行政と民間が連携することが重要。

鈴木洋一委員長

- ・貴重なご意見をいただいた。それぞれの意見を受け止めさせていただく。
- ・ソフト及びハード対策について、しっかりと取組を進めていくことが重要と考えている。国や県の事業を含めたハード対策は非常に悩ましい部分もあるが、市民の生命と財産を守っていく観点からしっかりと取り組んでいく。

参加者⑤【更北地区】

- ・福祉避難所や避難所に指定されている全ての小・中学校の指定の一時見直しを希望する。平日の昼間はよいが、放課後及び休日は日直・教職員が対応できない。コロナやインフルエンザなどリスクが高い。また、教職員は避難所運営のスキルがない。
- ・大地震の発生時は屋外待機となる。応急危険度判定員の判定が無ければ屋内に戻れないため、それら人材の把握と育成をしてほしい。
- ・観光客の避難対応は観光振興課が所管している。危機管理防災課とどう連携しているのか現状把握してほしい。
- ・盲学校が福祉避難所となっているが、機材やスタッフも代わりがない。マニュアルがなく訓練も行われていない。盲学校では避難所運営はできない。

参加者⑥【柳原地区】

- ・令和元年東日本台風時の堤防決壊は、日常的に軽車両のみが通行し、脆弱であったためと推定する。多くの車両を通して上から圧縮して強靱化すべき。新たな堤防も泥と砂の集積で弱い。大型車両の交互通行で強靱化し法

面が崩れないよう対策してほしい。

- ・避難用ボートの配備をお願いしたい。
- ・災害で水道が使えないとき、井戸を活用ができるよう現状把握と配備、自家発電機と燃料の配備状況の把握が必要だと考える。



参加者⑦【三輪地区】（オンライン）

- ・福祉避難所について、現在は小学校などの一時避難所から必要に応じて、福祉避難所へ移行するケースがほとんど。令和3年から国は方針転換し、福祉避難所に直接避難する方向性を出しているが、ほとんどの自治体は「まずは一時避難所へ」と対応は変わっていない。台風災害を経験した長野市は、先駆けて最初から福祉避難所へ行けるようにしてほしい。

鈴木洋一委員長

- ・必要な方の避難先が確保されていることが重要。市民・企業・各団体・社協等と行政が連携し、力を合わせることを大事と考える。

小泉一真委員

- ・柳原分署に水陸両用車、塩崎分署に高機能救命ボートの整備等を進めているが、今後一層、船舶による救助の充実に取り組んでいきたい。

参加者⑧【吉田地区】

- ・女性の立場で乳幼児を抱えた女性等に配慮した避難所マニュアルの改定になっている。
- ・市民への周知のために避難所マニュアルの概要版の作成を希望する。
- ・マニュアルを活かすために、9月の防災月間に毎年いろいろなパターンの訓練を行い、避難行動要支援者と避難することを考える機会をつくってほ

しい。

- ・キャンプ愛好家の技術を避難所への支援に活用できるのではないかな。
- ・若い人にも関心をもってもらう努力が必要だと思う。
- ・ペットの同行避難から「同伴避難」へ一歩前進して欲しい。動物アレルギー対応も必要なため南北の運動公園などに動物と避難できる拠点を設置してほしい。
- ・常備品や防災リュックの準備を市の広報に掲載し視覚に訴えることが必要と考える。

参加者⑨【更北地区】

- ・防災無線は聞こえないため個別無線機の装備が必要と考えていたが、今日の説明で長野市防災ナビを拡充するほうが現実的だった。
- ・地域防災計画の基本理念、重点項目に自助と共助はあるが「公助」が無い。

参加者⑩【朝陽地区】

- ・昨年もこの市民と議会の意見交換会に参加したが、その報告書が、議会だよりとホームページに簡単にまとめられていた。市民は行政と直接話す場が少ないので、意見交換会のフィードバックをしてほしい。
- ・去年は、災害時の女性の活躍や、市・社協・ボランティアの三者連携の推進を提案し、地域防災計画の改定に反映されている。
- ・危機管理防災課だけでは解決できない問題があるため、市の縦割り行政からの脱却に議会の後押しをお願いしたい。

参加者⑪【朝陽地区】

- ・災害から命を守るために、個人として何ができるか考えていたが、本日はいろいろな気づきがあった。今後も、市議会から情報発信してほしい。
- ・災害時、トイレ問題が深刻であると感じている。
- ・長野市防災アプリの立ち上がりが遅く情報を得るまで1分もかかることがあるため改善してほしい。

参加者⑫【豊野地区】

- ・医療機器の電源確保（EV車等）が重要なため蓄電池に対する市の補助額を増やしてほしい。
- ・在宅避難者への支援内容の充実と避難困難者に特化した訓練の実施を希望する。
- ・災害情報を統一してほしい。
- ・地震で基地局が被害を受けると、アプリに頼った体制は機能しない恐れが

ある。

- ・医療機器を使う者の意見を聞いていただき、電気を供給する場所の充実を希望する。

参加者⑬【芹田地区】

- ・今回の意見交換会に出された意見は要望と苦情だけでテーマに即してなく残念だった。次回からはもっとテーマを絞るなど工夫してほしい。
- ・意見交換会の構成を、発災前・発災時・発災後に分けて整理して開催するべきと感じた。
- ・災害備蓄庫の中身が古いため点検してほしい。

参加者⑭【芹田地区】

- ・地震が多発している。家具の固定など「自分たちにできること」について市の啓発パンフレットが必要と考える。

参加者⑮【芹田地区】

- ・意見交換会のテーマを、発災前・発災時・発災後というようにもう少し絞ったほうがよい。
- ・水害や地震など災害の状況に合わせた防災訓練の方法を市から提案してもらいたい。

鈴木洋一委員長

- ・貴重なご意見をいただいた。今後、意見交換会の在り方や報告書の作成方法など、議会として議論していく。
- ・様々な立場の方から様々なご意見を頂戴した。本日のご意見をしっかりと議会の中で反映させていく。



【 特別委員会の今後の対応 】

今回 17 名と多数の方にご参加いただきました。参加者は被災経験者の方や地域の防災活動をされている方、ボランティア活動経験者、専門職の方等、様々な背景をお持ちの方で構成されており、それぞれの立場から幅広く貴重なご意見をいただきました。

行政・社協・民間 NPO との三者連携の強化、災害時の情報共有の重要性、災害関連死の検証の必要性、ペット同伴避難の必要性について、医療機器の電源確保について、市と県の連携強化と、多岐にわたるご意見をいただきました。

また、意見交換会の在り方や意見交換会のフィードバックの必要性等の貴重なご意見をいただきました。

今回の意見交換会でいただいたご意見を踏まえ、議会としても引き続き調査・研究を継続し担当部局と協議を重ねてまいります



受付、会場案内なども議員が分担して行った手作りの意見交換会

テーマ 2

利用しやすい公共交通について考えよう

【公共交通対策調査研究 特別委員会】

参加者：17名（うちオンライン参加者1名）

出席議員：◎野々村博美 ○和田一成 桜井篤 西沢利一 竹内茂
市川和彦 布目裕喜雄 小林秀子 松田光平

【◎委員長 ○副委員長】



参加者①【第一地区】

- ・東京から長野市に戻って、公務員の試験勉強をしている中で、論文に交通機関の問題が出されることもあるので、市民意見を知りたいと思い参加した。

参加者②【芹田地区】

- ・中心市街地の活性化と公共交通の結節や機能強化について勉強できればと思い参加した。

参加者③【第三地区】

- ・高齢者に関わる活動をしている。買い物ツアーなど出かける企画をしても、参加者が集まらないので理由を聞くとバスの乗り降りがとても大変と。バスの乗降の改善ができたらと思い参加した。

参加者④【第一地区】

- ・自動車を持っていないので交通機関を利用する機会が多く、公共交通のテーマに関心がある。
- ・松代と長野の公共交通は重要で幹になる区間。北側は長野電鉄が通っているが、しっかりした公共交通の確保が大切だと思い参加した。

参加者⑤【タクシー事業者】

- ・長野県タクシー協会、地区タクシー事業協同組合、長野市タクシー交通対策協議会の会長をしており、代表して参加した。
- ・持続可能な公共交通という観点からタクシー事業者統合を検討する企業もある。長野市でもスマートシティへの取り組みで問題解決を図っているが解決できない問題もあり、皆様のご意見を伺い意見交換することで、解決策を考えていきたい。

参加者⑥【川中島地区】

- ・人口が少しずつ増加する地域。鉄道沿線の地区だから、鉄道利用を促す事が必要と考える。
- ・以前、公共交通についてのパブリックコメント募集があり意見をしたことがある。移住者が増えるなど伸びしろのある都市として期待し、勉強したいと思い参加した。

参加者⑦【第一地区】

- ・大学に勤めている。情報化が発達しているので、新しい技術を使った観点で、新しい交通のあり方の仕組みづくりに関われないかと思い参加した。

- ・長野駅の西側は交通が発達しているが、長野駅の東側地区は穴のような状況。住民も非常に多いので、新しい仕組みづくりができないか。



参加者⑧【七二会地区】

- ・過疎化・高齢化が予想以上に進み、高齢者は、事故を起こす心配から免許返納したいけれど、返納すると生活が成り立たない状況。中山間地域の日常生活において、持続可能な足の確保は重要な課題で、議員の皆様と協議したいと思い参加した。

参加者⑨【古牧地区】

- ・減税と規制緩和をして市民の負担を少なくし、自立して暮らすことを前提とし、ネットを使って活動している。タクシー業界の人ともお話しできるので楽しみにしてきた。

参加者⑩【芹田地区】

- ・地区の役員をしている。芹田地区は高齢者が非常に多い地域で、通院が非常に大変だという意見があり、テレビで紹介されたモバイル交通やデマンドバスについて信州大学の教授と一緒に意見交換をしている。市の公共交通政策に興味があり参加した。

参加者⑪【芹田地区】

- ・地区の役員をしている。芹田地区は2万7,000名ほどの人口で、福祉自動車が一台しかなく十分なサービスが出来ない。利用目的も通院のみに限定され経費もかかり、解決策を探していたらm o b i(モビ)がテレビで紹介されており地区で導入できないか実証実験をしたいと考え、市議会議員の

皆さんとの意見交換会に参加した。

※m o b i (モビ)とは民間事業者が提供するエリア定額乗り放題交通のこと

参加者⑫【芹田地区】

- ・地区の役員をしている。芹田地区では、大勢が利用できる福祉自動車に代わる新たな地域交通システムの検討を始めている。市議会の皆様の考えをお聞きして、今後の参考にしたいと思って参加した。

参加者⑬【若槻地区】

- ・地域住民の足の確保は非常に深刻な事態。ぐるりん号も通っていない、路線バスも1時間に1便しかないような地域。アンケートで地域の要望を調査し、他市の先進事例も勉強している。公共交通、路線バスの充実も大切だが、持続可能な先進的な交通システムが必要だと考え参加した。

参加者⑭【若槻地区】

- ・上野より北の地域のバスは1時間に1本、17時が最終便。路線バスを田中地域や吉地域などへも通してほしい、足が悪い方は30～50メートル程度しか歩けず、バス停の間隔を狭くしてほしいなど要望がある。
- ・福祉自動車の利用は通院だけなので、買い物やその他の用途でも使える様な工夫をすべき。

参加者⑮【浅川地区】

- ・毎日バスを利用して感じていたことがある。1点目は、土・日・祝祭日の最終バスの最終便が早すぎる。
- ・2点目は、くるるカードにチャージする機械が17時で終わってしまう。
- ・3点目は、70才過ぎと思われる方がおでかけパスポートを知らず、現金で高い運賃を支払う場面を見たので、おでかけパスポートの周知をする必要があると思う。

参加者⑯【古牧地区】

- ・育休中で、公共交通機関にベビーカーを乗せるのが大変。もし私が車椅子だったら、もし私がけがをしたら、もうどこにも出かけられない、という不安がある。
- ・普段は車で移動してしまうが、長野駅まではバスを使わず40分歩いて行く。足の悪い高齢家族は自家用車の送迎が必要で、家まできてくれるか、近いところにバス停があるなど高齢者の生活しやすい公共交通の整備が必要だと感じている。

参加者⑪【若槻地区】（オンライン参加）

- ・市民協働サポートセンターに勤めていて、地域交通の課題について協議してきた。長野は車社会で、公共交通を使わないので、意識の変革がポイントだと思う。自動車はお金がかかるので必要な時にタクシーを使う方が経済的。みんなが公共交通を使う意識改革がないと、コミュニティーバスなども継続できないと思う。



参加者⑫【若槻地区】

- ・ぐるりん号は、一方方向でバス停位置も悪く、使い勝手が悪い。福祉自動車は制限があって使いにくい。
- ・上田の住民自治協議会でデマンド交通を実施している事例を知った。100m以上歩かない停車場所が好評だと聞いた。デマンド交通を地域に導入したらよいと考えている。

参加者⑬【芹田地区】

- ・モビを紹介したが、Ma a S（マース）の取り組みをしている事例では、町の生活道路に乗り合いタクシーを運行し、AIが通行ルートを自動的に選択し架空のバス停に止まるシステムで、実行できる体制を早めに作りたい。議会の皆さんにもご協力いただきたい。

※ Ma a S（マース）とはバス、電車、タクシーなど異なる事業者のルートやダイヤ、運賃等の情報を統合し人々が効率よく、かつ便利に使えるようにするシステムのこと

参加者⑭【古牧地区】

- ・今日、公共交通機関で来た方ってどのくらいいますか。議員さんは、市民の意見を聞く立場、せめて通勤だけでも使ってみてほしい。

参加者⑨【古牧地区】

- ・国民負担率は47.5%、今後も景気が悪くなる方向で、地方交付税交付金も減ると思う。タクシー会社への税金を下げるのがいいと思っている。電鉄会社への補助金もなくならざるをえないと思っている。

参加者⑥【川中島地区】

- ・長野市はぐるりん号があるが、長野駅から橋の南、松代とか篠ノ井とか川中島とか大きな輪で回るぐるりん号がほしい。青森に行ったときに、観光名所・大学・高校・病院・ショッピングセンターを通る、ぐるりん号のようなバスがあった。観光客がいたり、地元の人が買い物で乗っていたり、時間帯によってはバスも一杯になる。長野市もいろんな場所があるから、今ある地域ごとのぐるりん号は必要なものは残せばいいが、大きく回るようなものできないかと思う。また、都市計画と公共交通は一体でなければおかしい。

参加者①【第一地区】

- ・バスとか鉄道は固定費がとても高いので、モバイル交通とか乗り合いのタクシーはいいなと思う。親族が北海道で介護タクシーをやっていて、北海道だから交通機関がないのは分かるが、長野にもそういうのがあればいいなと思う。
- ・全体を回るよりは、小さい区域ごとを縦横無尽に回って、インターネットを通じて今タクシーがどこにいる、何席空いているというのが見られれば、今近くだからこっちにお願いしようとかもできる。そういうタクシーが回れば回るほど雇用も増やせると考えている。
- ・車がいっぱい回れば、車のラッピングとかで例えばCMとか、いろいろつなげられるのかなとか、自家用車を使うのも減らせると思う。バスとか鉄道で高齢者の方が乗るのが大変で、そこを改善するよりもタクシーとかモバイル交通というのが現実的な案かと思う。

参加者②【芹田地区】

- ・中心市街地のぐるりん号を改善したいという皆さんのご要望。例えばこんな具体策はどうか整理してきたので、3つ申し上げる。
- ・1つは、西の方だけ回っているぐるりん号を日赤まで回りたい。ホクト文化ホール、ビッグハット、信州大学など、長野市にとって重要な都市拠点があるところをぐるりん号が回ってないのはおかしいと思う。北の方は、県立美術館、信大教育学部もあるし、西の方には総合病院がたくさんある。路線バスと棲み分けする必要があるが、市民のためにも観光客のためにもそういうところを回りたい。そもそも市役所をぐるりん号が回っていない。

市役所と芸術館は当然ぐるりん号は回すべきだと思う。

- ・2つ目は、路線バスとぐるりん号が分断されている。郊外の路線バスで来た人は、ぐるりん号にフリーで1回乗れるとする。バスで日赤や市庁舎へ行くのには長野駅で乗り換えが必要だから車で行ってしまう。ぐるりん号と競合している日赤線、県庁線、びんずる号は利用者が多い路線なので、全体で乗る人が増えれば、決してバス事業自体は今より赤字になるということはないと思う。
- ・3つ目は、1日フリー乗車券を充実させる。ぐるりん号は1日フリー乗車券がない。全国の地方都市では、主要な観光地を1日フリー乗車券で回ることができるが、長野市ではできない。須坂にイオンモールができると、そこに車で行った方が楽だとなって中心市街地は大打撃を受ける。長野市がより魅力的な都市になるように、公共交通も都市計画も再開発も、道路計画も全部もちろん一体的に描けばいいと思う。



参加者⑰【若槻地区】（オンライン参加）

- ・モビの事例を更北地区、大豆島地区、中央病院へ持ち込んで話をした。大豆島地区から吉田高校、市立長野中学校・高校へ行くのが不便で送り迎えしているので、シャトルがあればいいなという話だった。モビと一緒にやっているスマートシャトルがあるが、北海道で去年から実証実験をやっている。例えば出発点が長野駅で到着点が松代とか川中島だとすると、今のバスと違うのは、停留所は想定されているが、利用者が少ないとそこを飛ばして走って目的に着くというもの。
- ・ぐるりん号が市役所を通っていないという話があったが中央病院も通っていない。その先にもいくつか病院があり、そこに病院線が出ていたらいいという話も聞いたことがある。モビがすごく可能性があると思うので、検討してほしい。

- ・中山間地を中心にデマンドをやっているが、市街地についても正直待ったなしだと思うので、その辺は是非お願いしたい。

参加者⑦【第一地区】

- ・公共交通機関はとても重要だが、自治体だけで負担をしていると破綻していく気がする。長野市は善光寺もあって観光客もいるので、その方々にもお金を落としてもらう何らかの仕組みが必要かと思う。
- ・長野駅東側は路線が少なく、人が多い。線路はあるが、1時間当たり何本通っているのか、ほとんど通っていない。日中全然通らない時間もある。朝も、早くからは走っていない。夜も早く終わってしまう。結局、空洞みたいになっている。特に駅から近いところは人も多いため、全部自治体でお金を負担する形ではない公共交通機関がやれるといいと思う。
- ・1つはデマンド交通だが、これをやるには法律の壁もあって、臨時的な法律を使って運転するという期間が必要。また自治体の協力がなく許可が下りないので、ぜひ市役所の方や議員の方のご理解で、テストのデマンド交通をやらせてもらえないか。
- ・もう1つは、東側だけではなく、西側に移動するのだから、西側エリアともくっつけたような乗り継ぎのデマンド交通が必要。新しい仕組みも入れたような形でテストができないかと思っている。

参加者⑧【七二会地区】

- ・議員、市民、行政、運行事業者、交通コンサルタント等で交通弱者の足を確保するためのプロジェクトチームを立ち上げようというのを、今日の最終成果にしていただきたい。今日23日の信毎にタクシーが4台でも営業できると緩和されたという記事が載っていた。自家用有償運送法の料金制度についても緩和しよう。全体でまとめた力は、大きな効果も発揮するので、ぜひ議員に旗振り役をやってもらいたい。
- ・事業者協力型自家用有償旅客運送制度が令和2年にできた。それにAIを利用したオンデマンドシステムの構築が理想だと思う。



参加者⑤【タクシー事業者】

- ・ぐるりん号を南側や駅東側にとの意見だが、乗り合いタクシーの路線が今南側にもある。乗り合いタクシーはタクシー会社がやっている。乗客9名までの車体は、タクシー会社が運行できるが、タクシー会社がマイクロバスを運転することはできず、バス会社がやらなければならない。乗り合いタクシーは乗客9人で運転手が1人、当然車両が小さいほど固定費も安くなる。長野市の中山間地のエリアで乗り合いタクシーを使った路線に順次切り替わっている。
- ・今後の話になるが、戸隠・鬼無里のエリアは、利用者数も大分少なくなっているなので、路線の数を統合させようと、運行数を減らしながらうまくやっっていこうという計画がある。信州新町、中条も同様である。AIを使い、コストを減らす方法が計画されている。AIについてはまだ過渡期で、十分なデータが取れていないが、数万件のデータを詳しく取ることによって統計も取れる。
- ・自動運転に関しては、冬の長野市を送迎できるか、冬の戸隠を無人で走れるか。お客が1人で夜走っている時に故障して動けなくなったらどうするか。自動運転は市内のグリーンシーズンにやる程度でお願いしたい。
- ・モビは、私も令和3年8月の実証実験の段階から参加していて、事業者と何回も話をした。その方はモビを長野市で使いたいと言っていた。
- ・消費税は、お客さんが定価に対してプラスで払うものだが、タクシー料金は消費税込みの運賃設定になっているので、現状はタクシー会社が払っている。身体障害者や免許返納者、療育手帳を持っている方は公共交通運賃割引になるが、タクシー業界も運賃割引している。市からの補助ではなくて、タクシー事業者が1割引をしている。消費税は今10%だが、増額になったとき、タクシー業界はすべて全減すると思っている。
- ・ロープウェイを長野駅から善光寺まで長野大通りの上を通らせると面白い。善光寺口で折り返して芸術館の屋上に駅を作る。それを長野駅から松代まで通しても面白い。人が運転しないから人件費はかからない。維持費だけになると思っている。

参加者④【第一地区】

- ・路線バスが、乗客数に対して大きいと思う。乗客数が少ないなら小型のマイクロバスでいいと思う。大型バスは運転できる人が限られ、育成するにも時間と労力がかかる。

参加者⑪【芹田地区】

- ・地区として考えているのはモビだけど、モビに限らず地元の大学と産・学・官の事業連携という意味で、モビの実証をやらせてもらい、その間に

大学の研究室などの若い力を借りて長野らしいシステムを構想してもらうのがいいと思っている。

参加者⑩【芹田地区】

- ・テストデマンドに関する提言書を出したい。来年から実現できるよう予算化について後押しをしていただきたい。今いろいろご意見頂いたことを踏まえ提言書にまとめ、長野市らしいデマンド、モビ交通のあり方について提言書を年内にまとめて出したい。



野々村博美委員長

今日は、たくさんの市民の皆さんからご意見を頂いた。

中山間地でA Iを活用したデマンド制度が始まっているが、これからA Iを活用した新たな交通システム作っていくためのきっかけだと理解している。

福祉自動車をもっと使いやすいものにとか、大型の古い形のバスが中心になっている中でノンステップのバスを増やさなければということも課題だと思っているので、市の方へも要求していきたい。

市民と市側の理事者と議員も加わり新しい交通システムを考える、そういう場の提供も提案を頂いたので、大学の先生方、事業者の皆さんと気軽に意見交換会ができる機会を作ることができればいいと、今回受けとめさせていただく。

今回出された意見の中でぐるりん号の路線のことも常々感じていたことだが、A Iの活用を前提としたデマンドのあり方、福祉自動車、タクシーの活用などもしっかりと話をしていきたい。なかなか鉄道の問題まで、委員会として今まで議論がされてこなかった経過があるが、今後皆さんと意見交換をする場を作ったときには、そういう問題も含めて検討したい。

信州新町で始まったA Iを活用したデマンドバスは、今後は中条地区、鬼無里地区、戸隠地区に、そのあと浅川地区、芋井地区にも広がっていくという予定にはなっている。市街地でも活用できるように努力をしていきたい。

皆さんのご意見も反映できるような場も設定できるかどうか、そこも含めて検討させていただきたい。

交通弱者に配慮した利用しやすい公共交通のあり方ということが特別委員会のテーマなので、頂いた意見をしっかり反映をさせていきたいと思う。

本日はありがとうございました。

【 特別委員会の今後の対応 】

今回は17名と大勢の方に参加していただきました。

高齢者の足の確保という問題に地区として取り組んでいる地区の役員の方々、大学で新しい技術を使った新しい交通の在り方を研究されている方、タクシー事業者の方、学生の方、小さなお子さんのいる方など、それぞれの立場から貴重なご意見やご提案をいただきました。

路線バスはあっても、自宅や目的地からバス停が遠くて歩いて行けない、便数が少なく、必要な時間に適したものがなくて使えない、段差が大きい大型の路線バスに乗り込むことやベビーカーを乗せることが大変でバスの利用をためらってしまうなどのお話がありましたが、市街地においても公共交通が使用しづらい状況もあることが確認できました。

そして、それらの問題を解決するために地区や団体などで住民自らが他の自治体の取組みや、新しい技術を用いた公共交通について勉強や検討をしているというお話や、ぐるりん号などのコース変更や新たなコース（バス停）の増設、利用者数に応じた小型のノンストップバスの導入、A Iを活用したデマンドシステムやマースなどの新しい技術を用いたサービスの導入など具体的なご提案もいただきました。

本委員会としては、本日お話しいただいた皆様の思いやご提案を受けとめて、地域の実情にあった運行方法となるよう、様々な課題を整理する中で、ぐるりん号などの路線の見直しなどを行政に提案していくとともに、今後も市民の皆様の声を聞き、持続可能な公共交通システムの実現のため、引き続き調査・研究に取り組んでまいります。

参加者⑬【篠ノ井地区】

- ・山間部では人口減少で高齢化している。このまま何十年か経つと耕作放棄地になっていくのではないかという状況なので、これを活用した中山間地域について提案をさせていただきたい。
- ・スマート農業とかICT技術を使った、例えばドローンによる農薬散布とか自動草刈をするような農業法人を誘致しビジネスモデルを作る。
- ・都市に住む人が気軽に畑仕事をしたり、移住できるようなところとして中山間地域を使えばいいんじゃないか。日帰りでキャンプに来たり、バーベキューをしに来たり、自然と触れ合える環境。そういう中山間地域を活用するとよいのではないかと考えている。

参加者⑭【戸隠地区】

- ・戸隠で祖父の代から民宿を50年以上営んでいる。鏡池という非常に景色のよい場所。取り付け道路が狭くて行きにくい。ぜひ道路の拡幅と駐車場の増設をお願いできればありがたい。
- ・戸隠スキー場が、ずっと赤字続き。我々とすれば、スキー場が命綱で旅館を運営している。古くなったリフトは速やかに更新していただけないか。
- ・スキー場の駐車場が足りなくて車を止めるために渋滞が発生している。ちびっこ忍者村も大変な渋滞を引き起こす。駐車場に通じる林道の拡幅で解消を図ってもらえればと思う。
- ・林道を一般開放してサイクリングコースやクロスカントリーコースとして利用させていただければありがたい。

参加者⑫【第五地区】

- ・飲食店をやっている。そもそも誰に来て欲しいのか、どの層を呼びたいのかというのが第一にないといけないのでは。単純にホテルが増えて宿泊が増えたらお金を使ってくれるのではないかというところから始まってしまうと、それは本来目指すべきところではないと思う。「どういう客層を呼びたい」「どういう人たちを呼びたい」というところはどうやって決めているのか。

宮崎治夫委員長

- ・移住定住も含めて、新しい場所で新しい方々に新しい農業を広めながら、いろんな人に来ていただきたいというお話。「そこがいい」となれば、移住定住をしていただく、ということは、これが一つの観光とすれば、新しい取り組みかなと思っているので、しっかりと今後の中でも、前向きに考えていきたい。

- ・林道の関係も、今こういう状況になってきているので市はしっかりと考えていかなければいけない。
- ・夏場は戸隠に膨大な人が来ている。戸隠スキー場としてどうするかという経営戦略をしっかりと作っていかなければいけないのではと感じている。
- ・どんな客層に絞り込んで来てもらいたいのかということ。今、考えているのは、インバウンドも含めて長野をハブ基地にしたい。長野中心でそこに泊まって、冬であれば、白馬なり志賀高原なり野沢温泉なり、1時間以内で行ける。そちらに泊まるのではなく長野に泊まっていただくお客様をどのように増やすかということ、冬の戦略としては考えていきたい。
- ・ターゲットの関係に関しては、また委員の方から意見があると思うので、お話をさせていただければありがたい。



近藤満里委員

- ・今の説明の関連になるが、「長野市長期戦略 2040」というのを作っており、この観光分野ビジョンにおいては、Z世代に向けた「観光需要喚起プロジェクト」というのを掲げている。最初に私がこの長期戦略を見たときに、今、経済的に余裕のある50代とかそれ以上の方をターゲットにした方が手っ取り早く収入に繋がるのではないかという思いもあったが、やはりある程度の長期スパンに立った時に、2040年に40代50代になる方を、今からこちらに振り向いていただく。そして、彼らは発信力がある。というところでZ世代を呼び込んで、それが一つの起爆剤に、という発想も長野市は持っているので、この点についてのお考えも皆様からお聞かせいただければありがたい。

参加者⑭【戸隠地区】

- ・地区として全体的にお客さん呼び込む場合には、ターゲット層は老若男女すべてを対象にすべきである。ただ、それぞれの客層に対して、「私に

とってぴったりだ」と思わせるようなプロモーションが必要。

- ・戸隠スキー場も、家族連れよりもスキーを長年やっている上手な人が来るというイメージだったが、それだと高齢化していってしまうと客層がいなくなってしまう。スキー場に関しては、子供を連れて来て楽しめるのだよと。その子供たちが将来大人になった時に、また自分の子供を連れて来てくれる、循環していくシステムを作るべきでありエリア全体としては世界中あらゆるところから、あらゆる年代層を呼び込めるマルチの戦略が必要になると考えている。

参加者④【芹田地区】

- ・Z世代ひとつを対象という「決め」も非常に重要だと思う。一方、「すべてを対象」というのは無理な話。例えば、結婚式と葬式に着ていける服ひとつをうまく作ってくださいというと、グレーとかになる。そうすると中途半端で誰も買わない。これがターゲットを絞らないミスメイク。
- ・今、戸隠スキー場は基礎スキーという分野のエキスパート層が集まっているが、これは日本にしかないジャンルなので日本人がほぼほぼ 100%。一方、例えば野沢温泉はインバウンドでも英語圏のみを対象にし、中国語や他の言語を諦めた。なので、プロモーションする先はオーストラリア、イギリス、北米、この辺りのみ。スキー場の経営に関して言うと、絞っている野沢温泉、または白馬あたりはコロナ以前までも独り勝ち。それ以外のスキー場はすべてダウンしている。これがターゲットを絞っている効果。
- ・ターゲットの絞り方は、コンテンツがそこに合っていないと失敗になるので、例えばZ世代にするのなら、「よし、善光寺の御開帳を一気にPRしよう」ではおそらく来ないのでは。どこに定めるかは、意思決定者の権限。それを市民が支持するかしないかなのかなと思う。

参加者⑩【若槻地区】

- ・おやきとか、戸隠、すべて皆さん知っている長野市の魅力。かつ今までも語られ尽くされた観光資源のポイント、「点」であると思う。「気づいてない長野市の魅力」をどんどん出していくことで、改めてそういう魅力があったのかと、気づきの場になっていくことのきっかけを作りたい。
- ・観光で皆さんどうやって来るかという、鉄道なら長野駅、車なら長野インターか長野東インターか、主要な玄関口がある。そこから長野の観光というのはもう始まっているのでは。町や動線が全くないが、その「線」に実は魅力が眠っている。
- ・善光寺や戸隠でスキーの人たちが長野駅前で宿泊をすれば、そこで食や音楽や、長野の人達との触れ合いに重きを持って、泊っているところで長野を知る。

- ・市長がかっこいい動画をユーチューブとか上げているが、PV見ている限り、そんなに伸びてない。なぜかと言ったら「今までも知っているよ」ということを何となくかっこよく綺麗に伝えているだけだから。
- ・ひとつは動物というキーワード。長野市は城山と茶臼山の2つの動物園がある。長野駅を起点にして30分圏内に須坂市動物園も。動物が切り口のバラエティー番組、コンテンツ、動画はすごく目にするようになった。茶臼山は見せ方を工夫していて、動物園好きから注目されている。駅から近い城山は無料。認知度が少なく、もったいないと感じる。
- ・犬とか飼われている方が長野県にあるペットホテルなど目指して来ている。ペットと一緒に入れる、一緒に見られる、そういう環境整備をしていったら、ほかにはない何かができるのではないかと考えて提案させていただく。

参加者⑦【古牧地区】

- ・Z世代で大学生。交通が不便。長電ってちょっと高い。だからどうしても近くの長野駅あたりで買い物をしたり、ちょっとおいしいものを食べて帰るとかぐらいになってしまい、もっとスキーとかおやきパークみたいなところも行きたいが、ちょっと行ける範囲じゃない。
- ・提案したいのが、循環バス。「ぐるりん号」もあるけれど、私たちはあまり使っていない。松本市に「タウンズニーカー」っていう200円でどこまでも行ける循環バスがあり駅からイオンに行ける。それがすごくよい。これが交通に不便を抱えている私たちZ世代の意見。
- ・長野県は美術館が多くて、確か全国1位とか。芸術的に魅力のあるところで、市役所の隣にもホールがある。今年の1月くらいに有名な宝塚の方が来るミュージカルがあって、SNSとかも「長野、よいところだ！」って。東京から近いから人もたくさん来るし、いろんな企画を呼んだりして芸術



的に魅力のある街になったらいいかなと考えている。

参加者⑮【古牧地区】

- ・お金をかけないでできることは何か。プロモーションもその一つだと思う。SNSでなくてもいいのでは。
- ・今まで長野駅は、終着駅だったけど、今は通過駅になってしまっている。自然、観光、文化以外にも気づいていない魅力はもっとあるのではないかな。

参加者⑧【上田市】

- ・観光バスも、途中でバス停がもっとあってもいいと思う。
- ・SNSは自慢したいと思って皆さん投稿する。来れない人も来れるようにするためには、カフェごと、お店ごとにSNSでもっと発信したらどうか。

東方みゆき委員

- ・長野市のなかで篠ノ井は、観光地という扱いではないが、茶臼山動物園はすごくお客さんがいらっしゃる。南部地域としては、気合をいれたいところ。
- ・ペットを連れた方の観光をすすめたい。犬の散歩ができるように、改善を訴えている。この取り組みも進んでいくと思う。

参加者①【松代地区】

- ・松代は意外と童謡にゆかりのある方を輩出してきた町。童謡を活用した町づくりはできないか。
- ・スマホをかざすと、「汽車ポッポ」等の童謡が流れるようにし、それを探す。置く場所等を変えたりして継続的な企画としていったらどうか。
- ・「荒城」を抱える町で持ち回りでイベントをやってみたらどうか。
- ・松代文化ホールに大勢の人を集めて、松代にゆかりのある童謡を、例えば24時間歌い続けてギネスに挑戦してみたらどうか。コンサートや童謡にちなんだお話をしてもらうとかはどうか。

参加者⑨【吉田地区】

- ・気づいていない長野市の魅力では、長野県全体で自然がすごい。スキー場・キャンプ場がたくさんあるけど、自然として「長野の水」がすごく大切だと思う。水道水とか割とおいしいと思う。長野市の水もアピールできると思う。

参加者④【芹田地区】

- ・考えたいのは、差別化という観点。なぜ長野市なのか。
- ・長野の方が、標高が50メートル高いからいいというのは、大した魅力で

はない。長野県の中で北アルプスは唯一いい。これは大きい。長野県内でも東御にできたレストラン。1人10万円くらい。そういう値段設定でも人が集まる。近くでいうと、須坂の仙仁温泉。

- ・Z世代の消費額が少ないことをどう考えるか。諦めるのも選択肢であり、そうした柔軟性も必要だと思う。



参加者⑤【芹田地区】

- ・インバウンド誘客、国内県外客をどうやって維持していくか、差別化していくということになれば同じ戦略だと思う。
- ・小布施、飯綱、白馬等広域で連携し、長野駅または高速道路を利用するすべての人を観光ターゲットにしていく。
- ・長野市は県庁所在地で長野県の施設がいっぱいある。県立美術館はできたばかりだが、長野市からの発信はあまりない。もったいないと思う。魅力的なものがあればそこに行ってみたいと思う。これをうまくつなげることが大事ではないか。
- ・公共交通インフラが遅れていると思う。観光施設の主な所を結んだぐるりん号等の1日フリーパス券とかはどうか。
- ・都市間競争、地域間競争で負けてはいけない。早く長野に留まる流れを作らなければならない。

参加者⑩【古里地区】

- ・私は、18年間東京に住んでいて、先月戻ってきた。東京に近くて、物価が安くて気候がいいというのが、長野市である。移住でもいいのでは、長野に住みながら東京で働く。
- ・ベッドタウンじゃないが、当然市内でも買い物をするし、税金も長野市に入る。もちろん観光も大事だが、移住ということももっとアピールしたら

どうか。

参加者⑥【吉田地区】

- ・長野市は、善光寺が目玉ですが、もう一つの目玉として、もんぜんぷら座跡地に 10 階以上の高層ビルを造って見たらどうか。東京はスカイツリーとか都庁、大阪は通天閣がある。一つ超高層ビルを建てて、長野市中を見通せるようにすればどうか。
- ・市民目線ではあるが、車道歩道、自転車道とバランスよく走れる素敵な道路になっている場所がある。また吉田の公園も素敵な場所である。

参加者②【芋井地区】

- ・古い話であるが、飯綱信仰のもと室町時代にあつて、足利尊氏氏が安寧を願っての由来。今ロシアとか大変なことがあり、安寧の世の中を願う心意気とかも、観光にプラスになるのではないか。

参加者⑫【第五地区】

- ・10 年前に移住してきたので知らない部分があつて申し訳ないが、皆さんが話しているように、すごいストーリーとか歴史がある。善光寺とか戸隠スキー場とかの場所ではなく、実はそのことがすごく大切である。皆さん気づいているようで気づいていない部分ではないか。
- ・Z 世代は昔のことは分からない。各地区のストーリーをいかに具現化するか。気づいていない魅力を再発見すると同時に、いろんな人的資源を含め、それらを集めることにより地域の活性化にもなるし発信もしたい。そのサポートの具現化が必要ではないか。
- ・牛車を走らせて、一つの交通手段にするのはどうか。何がいいかというと、善光寺というストーリーがすごくよい。これは長野市にしかないこと。「牛にひかれて善行寺行ってみたいよね」とか観光のターゲットをはっきりさせて欲しい。

参加者⑪【若槻地区】

- ・先ほどの方が「篠ノ井は、観光地じゃないよね」と言ったが、そこに宝があると思う。めちゃくちゃ観光資源があるのが現実ではないか。信州新町、中条、小田切など、あそこにこそ、あそこにしかない物がいっぱいあつて、まさに先ほどいった差別化だと思う。
- ・パワースポットという言葉がある。御朱印集めもここ 10 年ぐらいトレンドではないか。松代には皆神山があり、世界最大級のピラミッドとも言われている。あそこは、とても面白い。

参加者③【吉田地区】

- ・お金の部分とかマンパワーとか解らないので、何がどこまでできるのか精査しないとイケない。

参加者④【芹田地区】

- ・どこの予算を削って観光に向けるのか、その意思の強さと覚悟が表れているのは、予算だと思う。
- ・ストーリーというのは、マーケティングで非常に重要で、これこそ差別化ではないか。Z世代に来てほしいのだったら、Z世代の意見を入れないとイケない。
- ・市民生活を見せるのも大きなアイデアではないか。
- ・長野市には、お酒の銘柄で全国のトップテンに入るようなものがある。これこそ真似ができない、差別化では。

参加者⑭【戸隠地区】

- ・長野市というのは、旧上水内郡、更科郡、一部埴科郡とか寄り合い所帯で、てんで我々のところがある。自分のところを一生懸命やっているのが現状だと思う。総合的にプロデュースする必要がある。
- ・周遊プランが必要ではないか。観光スポットが2、3km離れていて、移動が大変という事実がある。それを公共交通機関で賄おうとすると採算が取れないという問題もある。長野の場合、ドライブコースを設定したらどうか。長野駅で新幹線を降りたら、レンタカーで周遊してみてくださいであるとか。ジギスカン、ラーメン、蕎麦、神社仏閣コースであるとか、渓谷、博物館・美術館コースなどもある。総合的に組み合わせることも、大人でも子どもでも楽しめる企画であり、またそれをアピールしていく必要がある。



参加者⑬【篠ノ井地区】

- ・ 中国人が日本に何をしに来るかという調べてみたら、買い物、食事、遊園地、テーマパーク。食事は日本食。中国からのインバウンドを狙うのなら、この辺をもっと充実させる必要がある。また、長野でしか買えない商品等をアピールしていく必要もある。

参加者⑦【古牧地区】

- ・ 長野市は眠っている魅力がいっぱいある。SNSで発信している方がいて、長電の駅がレトロで、かわいい。今もある、古き良きものにすごい魅力を感じる。あんまり派手なものは求めない。それは東京の原宿で十分である。長野に必要なのは、昔あったレトロっぽいもの。ささいな日常にも魅力がたくさんあるなど感じている。

参加者⑧【上田市】

- ・ 私は上田から長野まで通学していて、長野駅で降りることもある。長野駅で降りても看板が分からない。
- ・ 上の世代に魅力的なものはあっても、Z世代の好きそうなものがない。Z世代も見るとものなので、もう少し工夫した方がよい。

宮崎治夫委員長

- ・ いただいたご意見は、今後の特別委員会に反映していきたい。今後新しいものと古いものとを共有しながら、地域を創っていかなければいけないのではと日々感じている。今日いただいたご意見をしっかりと、令和5年度の特別委員会に活かしていくということを申しあげて、意見交換会を終了させていただきます。本日は本当にありがとうございました。

【 特別委員会の今後の対応 】

参加者それぞれの視点からの多くのご意見を頂戴した。表題のとおり「気付いていない魅力」のご意見から、Z世代への対応、インバウンドの考え方、今あるものの違う角度からの活用等を参考にさせていただきたい。私たちが一方的に考えたものを提供するのではなく、しっかりとターゲットを定め、その対象者の行動パターンや考え方などを、聞き取りなどの調査を重ね実行することが必要だと感じる。

今まで、長崎・戸隠・野沢温泉などの視察を重ねた中で、インバウンドに対しての調査研究をしてきたが、今後もさらに調査を重ねたい。

このことに加え、今回の意見交換会で多数のご意見を頂戴した「Z世代」

にも注目し、調査研究することも必要であると感じた。私たちが考えている以上に、観光戦略の中でのZ世代の位置付けがとても大きいものと感じた。

今回いただいた多くのお考えの中で、ぼやけたターゲットではなく、狙いを絞ることが肝要であり、今後インバウンドも含め、さらにZ世代の考えや行動に関する調査を実践し、新たな長野市の観光戦略を創りだしたい。



参加者①【川中島地区】

- ・市営水道のエリアで暮らしたこともあり、県営水道のエリアで現在暮らしている。同じ長野市に住みながら、二つの水道料金体系が発生していることを経験してきた。一つの行政の中でずっと続くのかと疑問に感じている。

2年前の水道広域化のシンポジウムに参加した。水道関係の仕事に従事している関係で、広域で水道事業を運営ができるということも、シンポジウムのときに初めて知って、注目するようになった。

災害で全国の復興に関わったことがあった。それらを踏まえ、広域化のメリットに非常に期待している。あと、職員の異動に伴う専門的知識が不足しがちと思う。水道事業が全体で一元化していくことで専門的な知識を持った方が長いスパンで、携わることができ、安心して、任せられることができるというメリットがあると思う。総合的なところから、進めてもらいたいし、広域化がどの程度、実現していくのか興味を持ちながら、参加した。

参加者②【古牧地区】

- ・水道工事に関わる仕事をしており、これからの長野市の安心で安全な水の供給が安定していくためには、こういった仕組みがいいのか、事業者の面からの意見を述べさせてもらいたいと思ひ、参加した。

参加者③【篠ノ井地区】

- ・全国的には広域化が進んでおり、県下で長野上田間は先進的に取り組んでいる。この事業の議論が進んでいる事業体は、幸せだと思う。活発な議論と、国の有意義な補助金を使える最大のチャンスを逃さないように、進めてもらいたいと思ひ、参加した。

参加者④【川中島地区】

- ・15年ほど前に、群馬県の高崎市から転入した。
2年前のシンポジウムや市民説明会に参加したが、議員がどのように考えているのか知りたく参加した。

参加者⑤【安茂里地区】

- ・安茂里地区には浄水場が夏目と犀川、小市橋を渡ると県企業局の四ツ屋の浄水場がある。水道が目に見える地域に住んでいる。今日初めて参加した。
- ・1点目。この水道法の改正によって広域化の推進と同時に、もう一つの柱が、事実上民営化、コンセッション方式というのが、盛り込まれたと思う。広域化については、やむを得ない面がある。事実上の民営化コンセッションについては、将来的にも絶対に避けていただきたい。

今回は検討されていないと思うが、広域化されると民間資本から見れば、魅力ある事業体になるので、民営化、コンセッション方式が浮上する可能性があると思う。

水道は公営を貫き通していただきたい。ぜひ議会で決議するなり、或いは理事者側に確認するなり、いろいろな形で担保をとっていただきたいと要望する。

現状、料金徴収や検針は民間委託になっている。これ以上は進めるべきではないと思う。議会の意思を示していただければ。

- ・ 2点目。水道料金の問題。現状では上田市が一番低く、格差がある。料金をどのように統一していくのか或いは統一しないのか。将来的にわたってどうするかを具体的に住民に説明をしないといけないのではないのか。議会の考えは。
- ・ 3点目。設備の問題。老朽化の問題。地域によって老朽化が進んでいる等のアンバランスがある。各々自治体の利害がある。バランスを取りながら老朽設備に対する投資。改修・設備更新をどのように行うのか。もし考えがあれば聞きたい。理事者側にも要望していただければ。



参加者⑥【篠ノ井地区】

- ・ 若穂・松代地区で断水があったり、新聞でも話題になっている水に関心を持った。広域化を進めるにあたって、長野市がどのようなイニシアチブをとって進めるのか興味をもって参加した。誰が主体的な検討を進めるリーダー役になるか、一番興味を持っている。長野市と長野市議会が広域化を進めることを期待する意味で参加した。また、水道事業の特殊性がある中、広域化をいかに進めるか非常に興味あり、参加した。

水道事業は「技術力」が必要。お金の課題もあり、人(技術者)の課題も気になる。今後どう進めていくのか、非常に興味を持った。

参加者⑦【若槻地区】

- ・1回、住民説明に参加した。広域化することでいずれ、民営化になるのではないかと心配している。また、広域化を進めると、国から補助金が出るというところがあるが、この補助金も私たちの税金。ちょっと考えたほうがいいのではないかと思う。

報道に触れ、県からいろいろな支援をしてもらってもよいのではないかと思う。

長野市の水道は、本当によくやっているということなので、老朽化を直したりして、おいしい水が飲みたい。広域化すると遠くから来るのでまずいのではないかと心配する。広域にはあまり賛成できない。

参加者⑧【若槻地区】

- ・水の問題は非常に関心がある。誰でも口にする、生きていく上で大切。なくてはならないものだと思っている。配布された資料や説明を聞くと財政面や技術者が少なくなったなど。今のままでいくと、負の部分がすごくあって、もうどうしようもないという感じで受け止めてしまう。果たしてそうなのか。広域化が進むと民営化という心配もある。水道は命に関わるもので効率だけではなく、市や県が守っていくことが大事と思う。

参加者⑨【若槻地区】

- ・長野へ引っ越してきたときに水道水が臭かった。それもあって住民説明会に出席した。将来の供給単価の推移で市営水道と県営水道によって、なぜこのような差があるのか。積算根拠を教えて欲しい。職員の賃金、それとも、老朽化の保全のための費用なのかなどを明確にしなければ、広域化はできないと思う。教えていただきたい。

千曲市は千曲川の水をサービスエリアなどの高い位置まで上げているが、長野市の水源も高い位置から流していると思うが、広域化になった際にはどうなのかを知りたい。

参加者①【川中島地区】

- ・これから未来、運営に関しての民営化。参加された方々から意見が出たが、民営化にすると、安い水を追及して、基準値ぎりぎりの水が作られるのではないかと心配する。やはり行政の方がしっかりと運営して、それを議会がしっかりと監視するような統一した事業体が運営していただきたい。

参加者⑤【安茂里地区】

- ・ 県企業局を呼んで、水道事業広域化問題について学習会を開催した。その際も質問したが、研究会の中で、コンセッション方式民営化問題について議論がされたのか。県の担当は一切していないと言っていた。長野市議会でも議論されたのか、或いは理事者とのやりとりの中で議論されたのか。また、民営化はイコール儲けの論理。企業が大きくなればなるほど儲けの幅は大きいので、今回の広域化はすごく魅力的な事業体になってくる。50 数万人の利用者がある、大規模な企業団ができる。県で行った研究会には 10 数社の民間会社が傍聴で参加している。それを食い止めるのが議会の役目だと思う。議会で明確に将来的な民営化、コンセッションやらないことを決議して、或いは理事者にちゃんと確約させてほしいと思う。

小林義直委員長

- ・ 当特別委員会は昨年 9 月議会からできたところ。この広域化に対して議会として賛成とか、反対とか、そういう状況には至っていない。広域化についてしっかりと調査研究しようという段階。
- ・ 今、意見が出された民営化の話について、これまでの資料の中で、「広域化した場合もその後の人口減少等により経営維持が困難となり、民営化に繋がるのではないか」という質問に対して、当局の答弁では、「突然の倒産による水の供給停止や職員の技術力の低下等を招かないように、引き続き公営企業として事業を運営すべきで、民営化を考えていません。公営企業として安全安心な水を供給する目的を使命として事業を進めていきます」と。参考にさせていただければ。
- ・ もう 1 点、水道料金について。一般的な家庭の水道料金は長野市上下水道局と県営水道、上田市上下水道局では約 800 円の差がある。これについて、水道局から「水道料金は水道施設の歴史性、給水区域の社会的地理的要因、また各水道局の経営戦略から決定されるものと言われている。このため、単にこの料金をもって経営の優劣をみるものではない。長野市の水道事業エリアには中山間地もあり、区域も広く水源も分散し、浄水場や配水地も数多くあり、水道管の延長も長い状況にある。一方、将来の老朽化した施設の更新費用や災害時でも安定的な経営ができる資金も確保しながら、将来を見据えた健全経営に努めていく。」とある。

この特別委員会は調査段階。皆様の意見を参考にさせていただきたいと考える。

参加者②【古牧地区】

- ・ 水道工事の仕事として 365 日昼夜問わず、漏水に対応している。出動して緊急修理等を実施しているが、水道管について、経年劣化のものも大変多くある。現状を考えるとこのままでは安心して安全な水を使い続けることは

なかなか難しいという設備状況。一度水道管が地中で折れると、市民生活に大きく影響を与える。

- ・安全で安心の水を供給するためには、水道管、浄水場の設備を常に定期的
に検査して、更新をしていく必要があるが、大変な費用がかかるもの。健全
経営を行うには、料金面や人材面など多くの課題がある為、事業者が幾
つか集まって総力戦で戦っていくことがよいのではないか。そういう面で



は健全経営ができるのが広域化というのであれば、私は賛成。

参加者⑨【若槻地区】

- ・民営化はすべきでないと思う。それと、水道の工事が行われているが、下
水道や電話線とかいろんなものが地下を走っている。水道ばかりでなくほ
かの問題も含めて考えるべきではないか。全体的にみてやるのが効率的で
は。民営化も広域化もやめて長野市のそうしたものを全体について考える
べきではないか。

箱山正一副委員長

- ・広域化＝民営化と言うところに話が行っているが、民営化は今のところ考
えていない。今日のテーマは民営化問題ではないので、広域化についてご
意見をいただきたい。

参加者⑨【若槻地区】

- ・長野市の水道事業は往生地の浄水場、裾花ダム、犀川とかいろんなところ
から水を取っている。別に広域化しなくてもこうしたところの設備を保全
していけばいいんじゃないかと思う。

参加者③【篠ノ井地区】

- ・人口が減ってくる中で水も効率的に共有する。先進的な取り組みを全国ではしている。長野市もそういう取り組みをしていくことは重要だと思う。
- ・今、国の水質基準をオーバーしているわけではない。高いレベルの水を今後共有していくと思うので安心して進めていただいている。

参加者⑤【安茂里地区】

- ・特別委員会の役割、この間どういう議論をされて、今後どうしていこうとしているのか。
- ・こうして対話集会をやったり、議員間で議論をして特別委員会として一定の方向性を決めて反映していくようになるのか。今後の進め方はどうなるのか。

小林義直委員長

- ・この間委員会では、広域化をしている地域や、一度広域化しようと思ったけど、今ちょっと足踏みをしている、そういうところも視察に行った。上田の浄水場も視察に行ってきた。今それぞれの委員さんの考え方を、出してもらって、視察の報告書を出していただいて、それで、ある程度まとめをしていこうという状況。今日皆さん方のご意見も聞きながら、8月の議会の時点で一定の方向性は出さなくてはいけないと思っている。
- ・先ほど、今回は水道だ、この次は下水道だと何回も工事しているという質問があったが、数年前、委員会でも問題になり、もっと計画的に工事をやってくださいと議会が注文した。

参加者⑥【篠ノ井地区】

- ・人口減少の中で広域化は検討せざるを得ないとスタートしていると思う。いろんな選択肢があることをお示しいただいて、長野市にあった実状を行政と議会が一体となって研究していただかないと困ると思う。安全でおいしい水を適切な値段で持続的にという願いは皆一緒だと思う、その中で一番いい方法を探っていくべき。結果ありきではなく一番いい方法をいろんなご意見を聞いていかないと、間違った方向へ進んでしまう危惧がある。

金沢敦志委員

- ・人口は減っても、維持費用はあまり変わらないっていう中で、人口は減っていくのに1人当たりの料金は増えてくる。どうしたらいいんだというのはやっぱりこのスタートだったと思う。技術陣を守っていく、さらに長寿命化によってコストカットしていったって、間接費を抑えていくような事業ということで、我々は今のところは、勉強させていただいてる。

- ・決して民営化するとかそういう前提ではないということだけはお話させていただきたい。

参加者⑧【若槻地区】

- ・水道は命がかかる問題。財政とか人、技術者が減っていくとか。今のシステムでは、技術者が減ってくなら、減らさないために、そのシステムを改善していけばいいのでは。私は広域化することに賛成できない。安全な水を確保するために広域化ありきではなく予算の立て方を考えられないか。

参加者⑨【若槻地区】

- ・国の補助は広域化でないと出ないのか。



小林義直委員長

- ・今回、国は、この広域化事業を進めていくにあたって、補助金というものを用意している。
- ・期限つきでね。広域化を進めなくてその費用だけ、例えば更新工事に当てるとか、そういうふうにはならない。

参加者⑨【若槻地区】

- ・広域化を行うといくらぐらい国から来るのか。

金沢敦志委員

- ・300億円。ただ事業計画段階で確実なことは言えない。

阿部孝二委員

- ・市から示されたのは広域化への国の支援ということで、広域化事業では、3分の1、運営基盤強化事業で3分の1。広域化事業で、一応シミュレーションで、300億円の3分の1、100億円。運営基盤強化事業等については270億円の3分の1で90億円。合わせて、190億円。それで、期間限定があって令和16年を限度とするとなっている。十年間で。だから、令

和6年に決めないと。補助金は出ない。議会としては12月定例会で、アンケートの報告がされる。少なくとも来年の3月には、方向性を決め令和6年に公的な協定を決めないと、令和16年には間に合わないという状況。

小林義直委員長

- ・水道の広域化に広域連合のような議会を作っていくかどうかはまだ議論していないが、当然、広域化をしていくことになれば、市民の皆さんの立場に立った、チェックを入れていかなきゃいけない。それが議会。ただ、今そういう状況までまだっていない。先ほど民営化に関して、議会として、反対の議決ぐらいしろと意見をいただいたが、今、賛成にしろ反対にしろ、まだそういう状況にはないとご理解をいただきたい。



参加者⑧【若槻地区】

- ・この前の柳原の説明会でも、広域化をしたいっていうのが先のような説明会だった。広域化すればこの先民営化になるんじゃないかと心配。長野市の水道局は広域化する必要ないくらい一生懸命やっている。補助金を貰うと言っても、私たちの税金なんだから、もっといいところに使ってもらいたい。長野市の中の老朽化しているところを直してもらいたい。

参加者③【篠ノ井地区】

- ・料金上げないために、現場の人がお考えになったのがこの案だと思う。水質とか安全のこと言われたが、長野市も上田市も企業局も水道の水の安全は担保されている。上田から長野に行くには、高低差を利用すれば水が来る、電気料をかけなくても自然でくるっていうところが一番メリットかと思う。単独でやった時と単独じゃない時では、広域化した方が料金下がるという数字が出ている。この計画についてももう少しきちっと議論なり、検証

することが必要ではないか。

参加者①【川中島地区】

- ・同じ長野市の中で、県営水道と市営水道が使われている。同じ、料金体系、同じ施設の中で、市民として平等な条件になるべきと思う。長野市が小さい自治体をカバーするわけではなく、スケールメリットとして最終的にはコストダウンに繋がると言うことが、確認が取れていることであれば、広域化によるデメリットも少ない。災害に対して、どのような時でも、供給が可能だと言うことは安心、安全という面に対して有益であると感じる。



参加者⑨【若槻地区】

- ・水道事業を支える人材不足の問題はなぜ起こるのか。退職してしまうことで不足するのか、応募者はいないのか。

箱山正一副委員長

- ・この資料では水道事業を支える人材不足については、将来の推計人口と同じ割合で減少した場合ということになっており、一般的な人口減少に合わせた職員の減少になっている。

阿部孝二委員

- ・この先収入が 35%減少する。だから、収入との人件費の割合を比較すると、職員も減らさないと駄目だ。それを今度はどうするかという問題にはなる。料金収入が約 60 億円から 39 億円になって、35%減ると職員も、収入に対する率からいくと、減らさないとやっていけない、そういう根拠に基づいて、職員も減ると言うこと。職員を確保するとなればまた別立てで職員をふやさないといけない。

若林祥委員

- ・例えば 1,000mの管路の中に 1,000 人の水を使う人がいたとして、それが人口減少でだんだんに減っていく。800 人、500 人、300 人となって人口が減っても管路はその都度撤去していくわけにいかない。人口が減ったからと言ってコンパクトになるわけではないからそういう中でどうしていくかということだと思う。水道局の仕事をする人だけが減るわけではない。相対的に人口が減っていくということだ。あと、民営化に関するご心配の声が出されたが、県の方でも民営化について検討された経緯はないですし、長野市でもこの委員会ではこれまで全く討議されておられませんし、そういうテーマでもありません。ただ、私も含め委員の中には民営化に関して危惧してることは確かである。広域化の問題とは別の話として考えており、また別の機会に検討すべきことである。

小林義直委員長

- ・近年、持続可能な社会づくりをしていこうという機運がありますが、水と空気と大地を守っていくことに尽きると思います。その中でも「水」は特に重要で大地の中を通ってくるものですから、山も守っていかなくてはならない。そういったことも含めて、今日いただいた皆様方のご意見をしっかりとまとめながら、特別委員会の方向性を出していく中にしっかりと反映をさせていただきます。皆さん本当にありがとうございました。

【 特別委員会の今後の対応 】

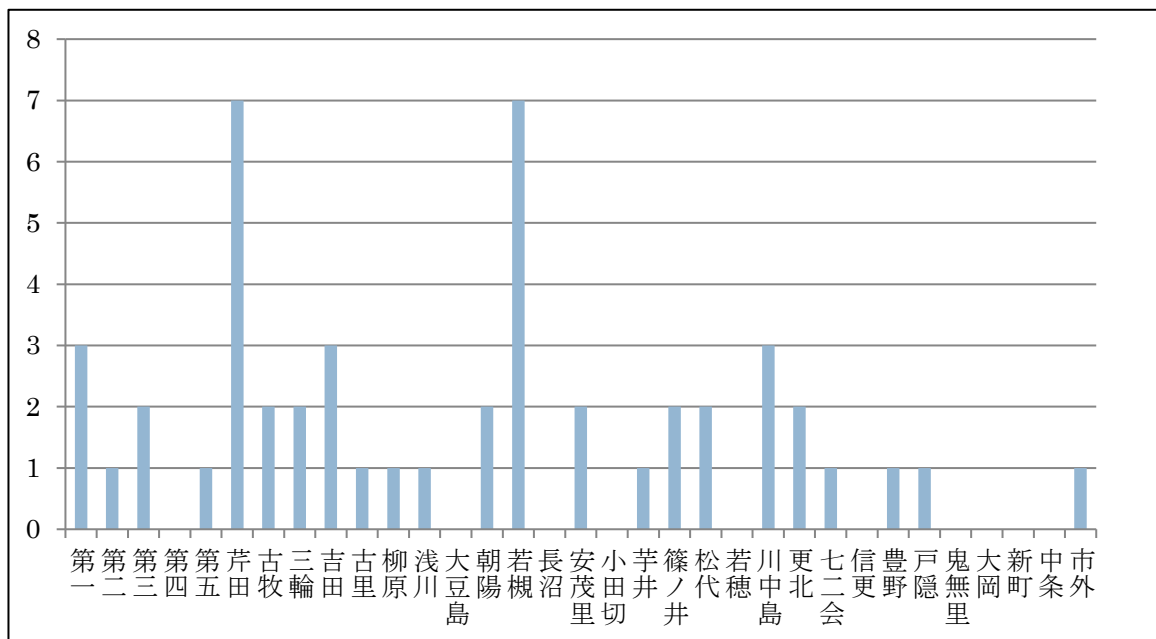
- ・今回の意見交換会では、市民の皆様 9 名の参加で、長野上田間の水道事業の広域化に関するさまざまな立場から貴重なご意見をいただきました。水道事業は、将来の人口減少による料金収入の減少や老朽化施設の更新費用の増加が見込まれます。加えてベテラン職員の大量退職、少子化による担い手不足、多発する大規模災害への対応など、経営は年々厳しさを増しています。
- ・これまで独立採算でやってきた水道事業ですが、広域化に向けては、国の財政支援や経費削減により水道料金の値上げが抑制でき、送水管の二重化などの整備により、長野上田間での緊急時の対応がより強化され、災害時に備えることができます。また、一定規模の職員を確保することで、専門人材の確保・育成や危機管理体制の強化を図ることができます。一方でお客様窓口を集約化した場合、サービスの低下を招いたり、各自治体の意向が反映されづらくなるとも言われています。
- ・本日いただきましたご意見をもとに引き続き委員会で論議を重ね、広域化に向けた調査研究を継続していく必要があると考えます。

Ⅲ 参加者アンケートの結果

意見交換会に参加した58名のうち、52名の方にアンケートにご協力いただきました。

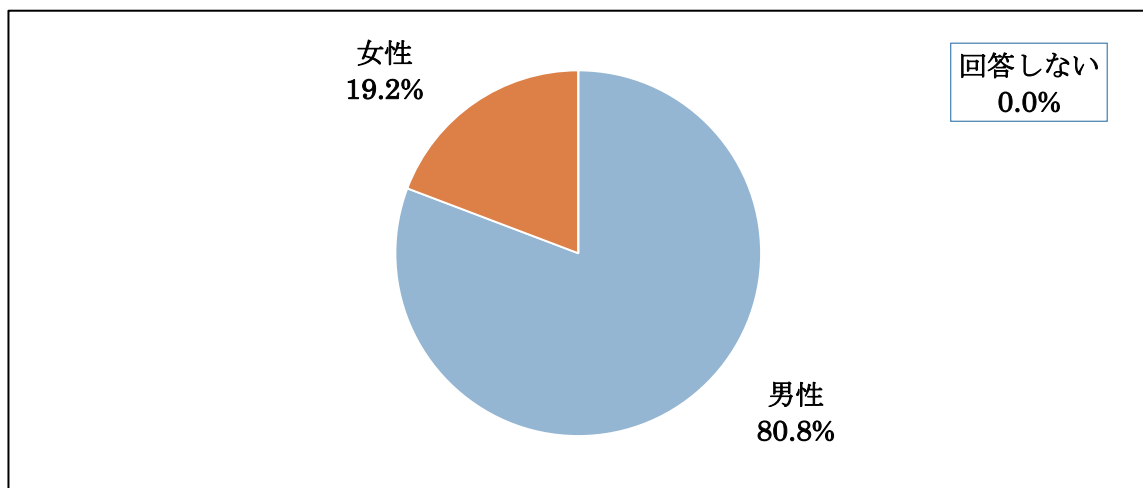
(※回答の構成比は小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない場合があります。)

◆問1：お住まいの地区をお伺いします。



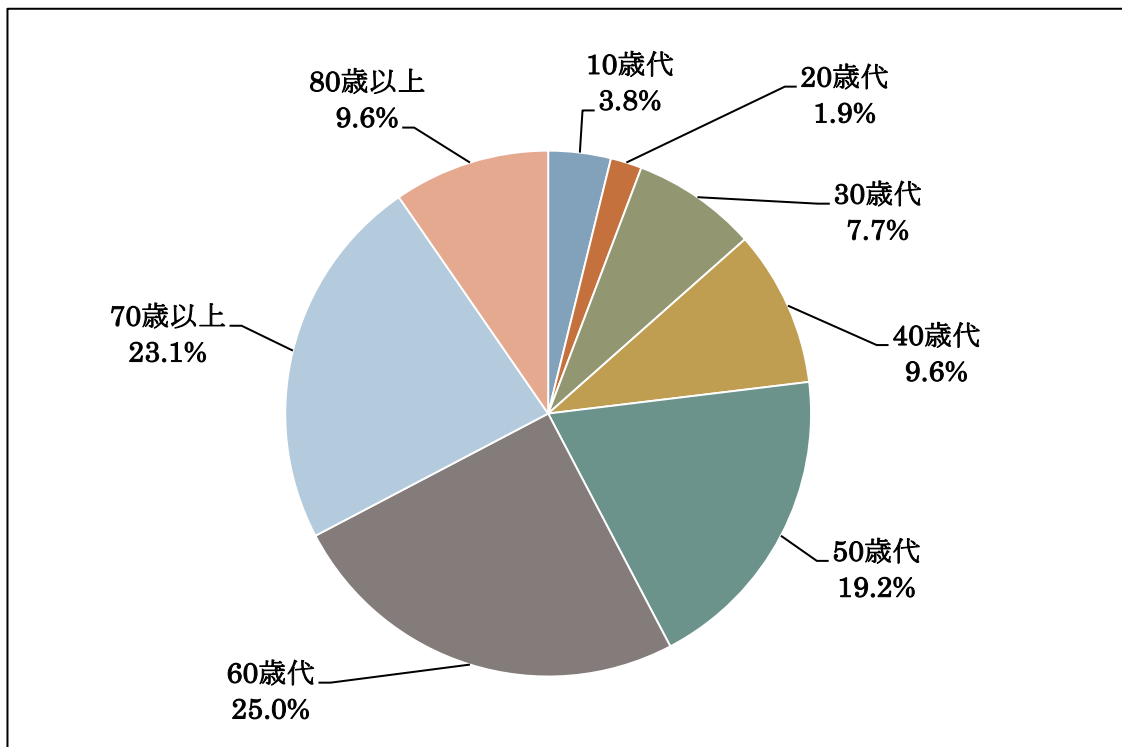
オンラインも併用した意見交換会でしたが、中山間地域からの参加者が少なく課題であり、参加の方法の工夫が求められます。

◆問2：性別をお伺いします。



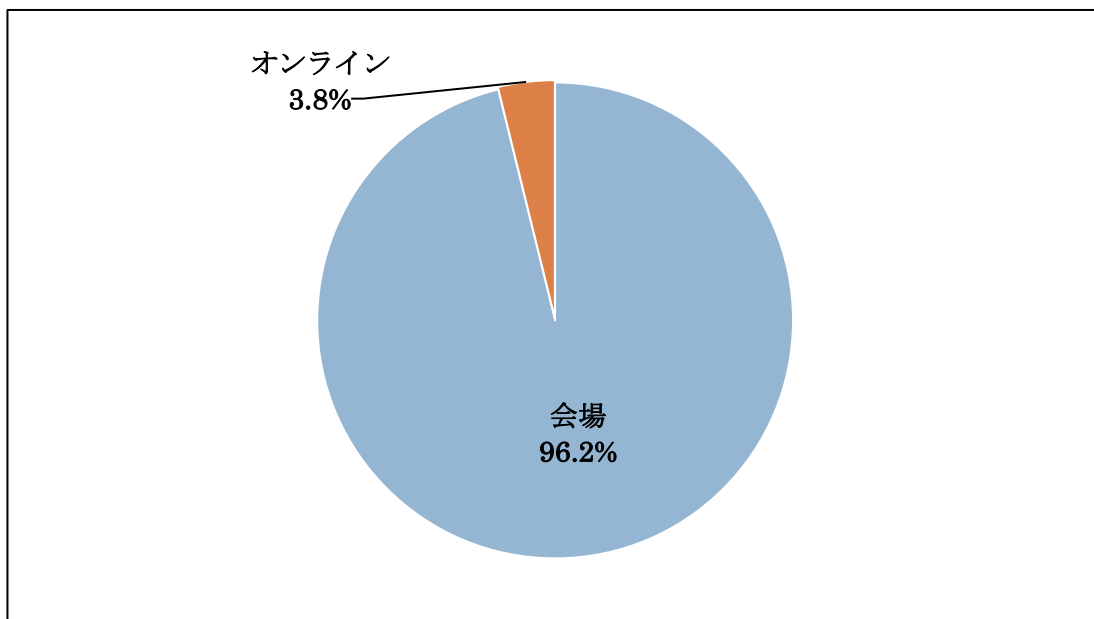
女性の参加が、昨年までと比べ2割を割り込みました。

◆問3：年代をお伺いします。



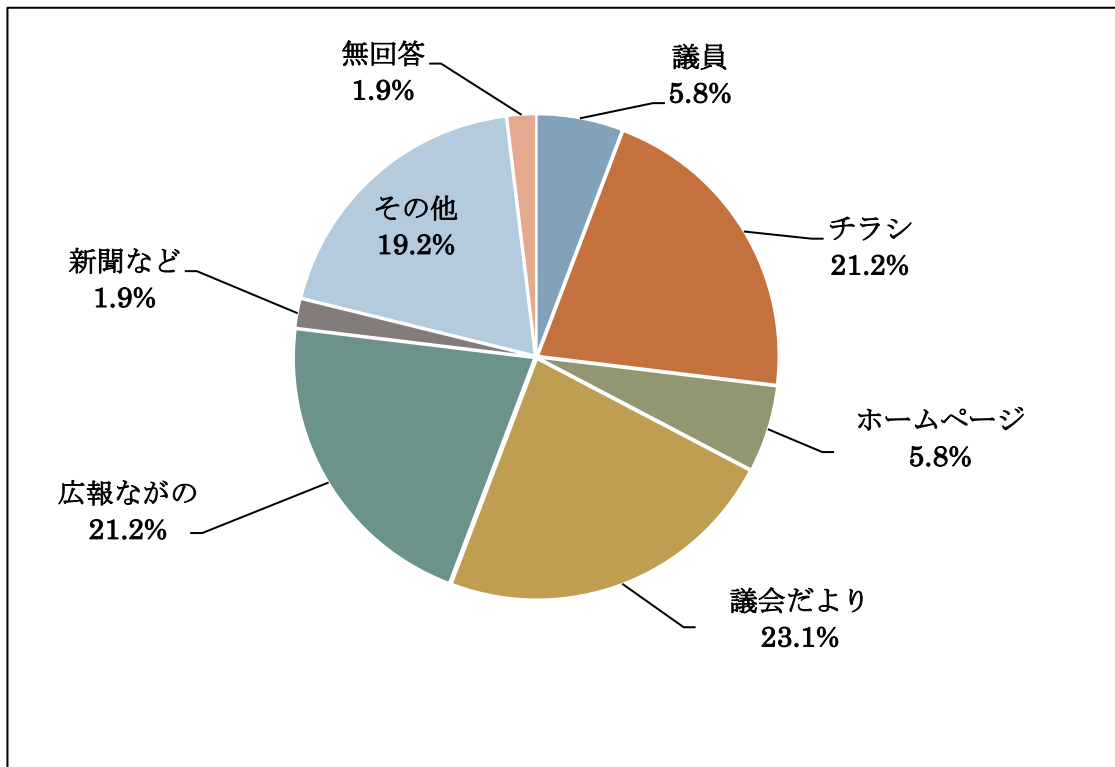
10歳代から80歳以上まで幅広くご参加いただいたが、39歳以下の若者の参加が、13.4%と少ない傾向です。

◆問4：本日の参加方法を教えてください。



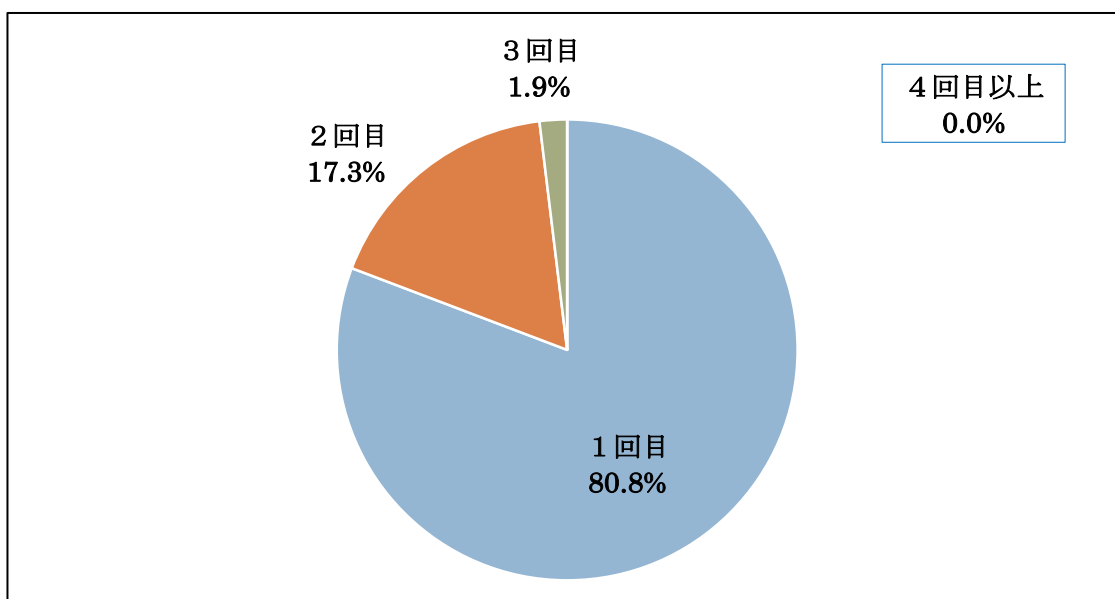
対面とオンラインの併用での開催であったが、96.2%の方に会場にお越しいただきました。

◆問5：意見交換会の開催情報は何かからお知りになりましたか。



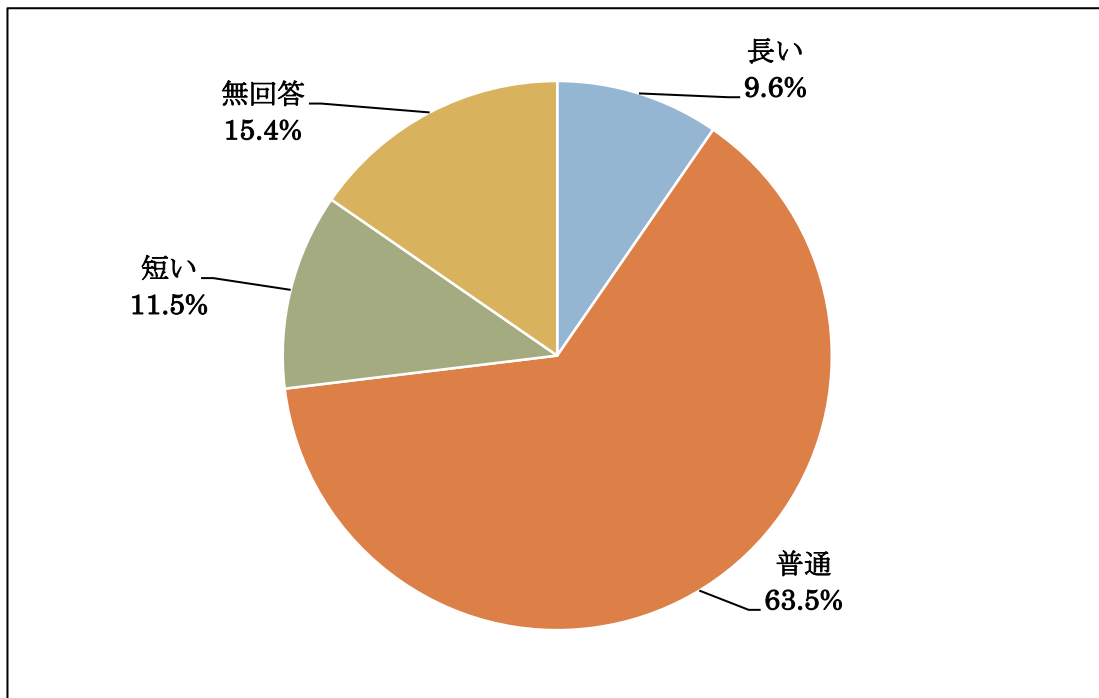
定期刊行物の議会だより、広報ながのでの情報取得が、44.3%と約半数でした。

◆問6：「市民と議会の意見交換会」は今回で5回目の開催となりますが、何回目の参加になりますか。



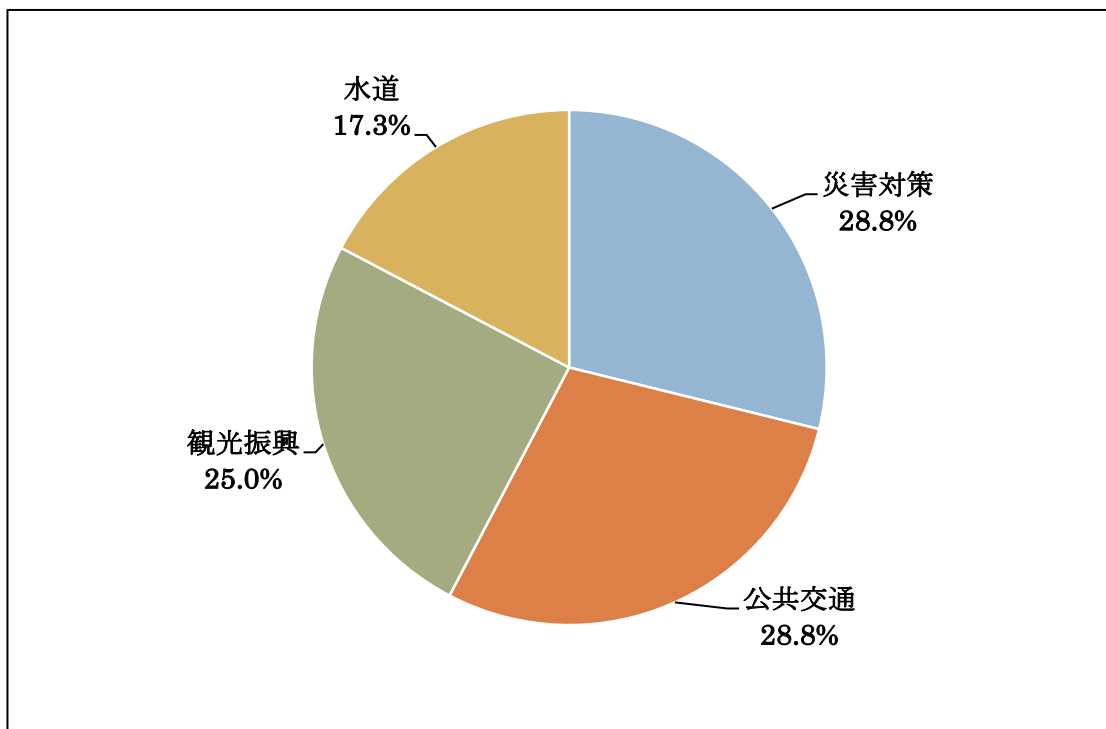
初めての参加が8割を超えた一方、リピーターが少ない傾向です。

◆問7：意見交換会の時間はいかがでしたか。



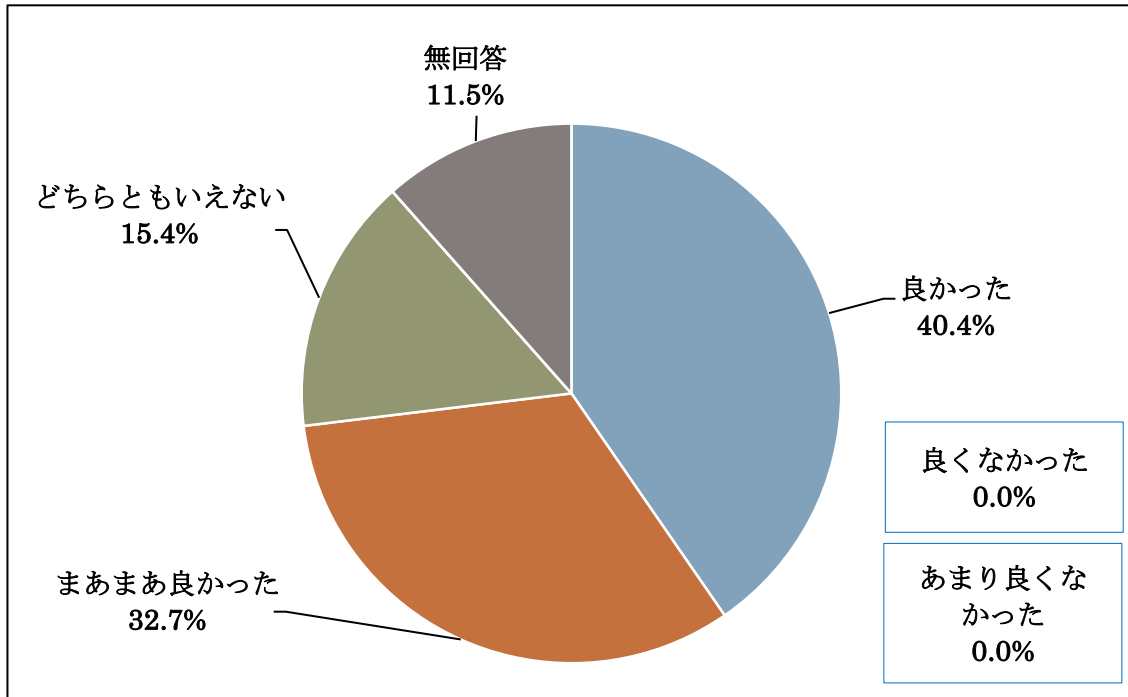
時間が「長い」と「短い」の回答が拮抗しており、おおむね「普通」との回答が多かった。

◆問8：意見交換会はどのテーマで参加しましたか。



水道事業広域化調査研究特別委員会が17.3%と参加割合が少なく、それ以外の3特別委員会は、20%後半の参加割合でした。

◆問9：今回の意見交換会はいかがでしたでしょうか。



「良くなかった」「あまり良くなかった」が0%で、「良かった」「まあまあ良かった」を合わせると73.1%でした。一方、「どちらともいえない」という回答も15.4%ありました。

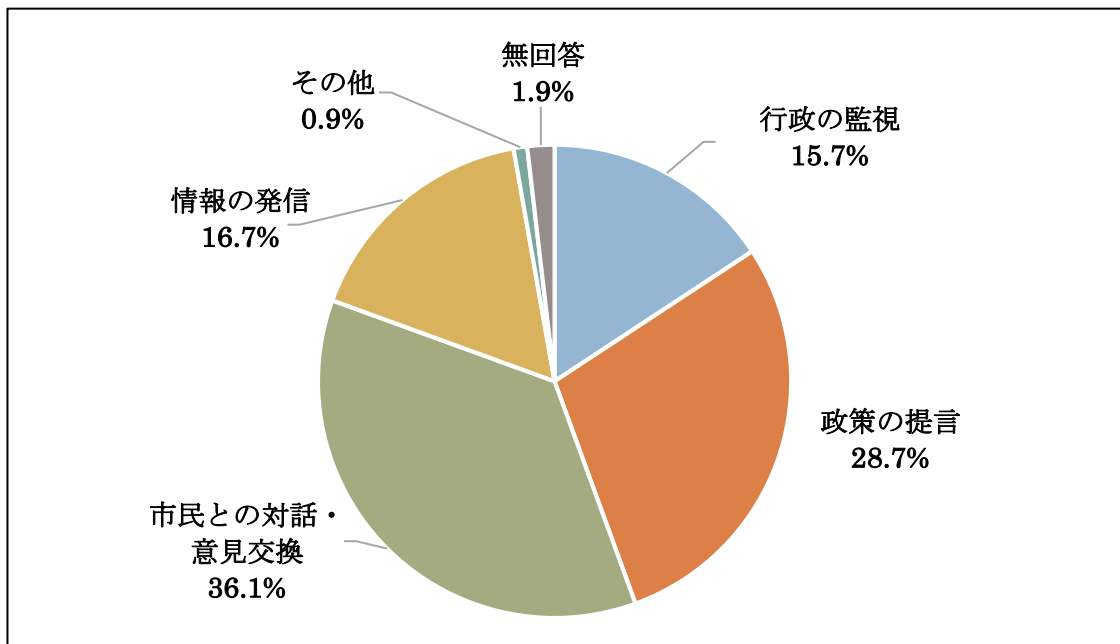
問10 今後、意見交換会に望むこと、開催・運営方法等について、ご意見がありましたらお書き下さい。

- ・大きなテーマ設定でしたので、目的を絞ったほうが、議論が深まると思います。
- ・多くの視点からの意見が聞けて良かった。厳しい意見が多いと感じた。
- ・興味深かった。再度参加したいと思う。
- ・時期、場所、運営方法はよいが、議題を絞ってほしい。
- ・委員長の話が長すぎると感じた。発言のボリュームが小さくて聞きにくかった。
- ・また機会があれば参加したいです。この会の内容をHPなどで細かく周知していただけたらうれしいです。

- ・もっと長い時間をとってグループを分けてやってほしい。内容を絞ってやってほしい。
- ・視覚障害者（弱視）への職員の対応、ありがとうございました。地区の役員・代表が多かったが、市民の参加を積極的にお願いします。
- ・引き続き、このような機会を設けていただけるとうれしいです。発言時間の3分超えの方が多かったのが残念。意見、要望を聞いていただくことは大切だと思います。
- ・もう少し参加人数を多くしてほしい。
- ・参加者の意見は苦情と要望ばかりで、建設的な対策についての意見交換はなかったと感じた。今後はテーマを二、三設定して、その件について意見を交換してはどうかと思います。
- ・マンツーマンでの意見交換をお願いしたい。
- ・災害時要援護者の避難の仕組み作りは始まったばかりですので、ぜひ、引き続き、地域防災をテーマをお願いします。
- ・このような意見交換会がもう少したくさんあってもよいなと感じました。良い制度です。
- ・このような機会はとてもよいと思います。
- ・高齢化時代の公共交通の在り方の青写真を示してほしい。
- ・意見交換会で終了ではなく、具体的な成果を上げることが望む。「市民と議会の意見交換会」発の成果をあげるようにしてほしい。
- ・高齢者・障がい者・保育・福祉に関する意見交換会があれば参加したいです。
- ・オンラインで参加できるのはうれしいです。
- ・議員さんも日常的に公共交通を利用したら実感が持てると思います。
- ・意見交換会を地区単位でもやってほしい。
- ・気軽にたくさんできるといいですね。直接議会と交流できるのはいいことです。
- ・1人1人のあいさつは時間がもったいなかった。
- ・オンライン参加の人の声がよく聞こえない。

- ・もっとテーマを絞ってやったほうがいい。
- ・意見交換会の目的が明確だとよい。行政の政策、活動内容を把握する必要がある。
- ・日時（曜日、時間帯、時季）により参加しやすい方も変わってくると思うので少しずつ違う時間帯の開催を継続的にしていくのがよいと思う。
- ・市民の声を行政に確実につなげ、政策が前進していくよう尽力されることを期待します。
- ・事業者の方の話が聞けたのはとても参考になった。深刻な話題ではあるのですが、もう少し問題があることが市民に伝わって議論に関わる人々が増えればよいと思う。
- ・ぜひ、今後も議論の場を設定してほしいと思います。
- ・最初に参加者から意見を述べてもらってから意見交換をしてはどうか（数人の方に発言が集中しがちのため）。
- ・発言を始めると話が長くなるので、司会者の方から1回の発言は5分程度とするようにと申し添えたほうがよいのではないかと。
- ・いろいろと気づき、学びがあり、勉強になりました。
- ・少人数で議員の考えを市民が理解できる場があるとありがたい（意見を言える人は少人数で、見る人はどれだけ多くてもよい）。
- ・この会での意見が広く発信され、様々なエネルギーや企画の基になっていくことを期待します。
- ・良い機会だったと思うので、回数を増やしてほしいです。
- ・テーマに沿った話になっていない人ばかりで残念だった。
- ・平日、土日両方あってほしい。委員はまず全員発言してほしい。
- ・受付から会場まで不便。会場レイアウトが疑問。資料不足。
- ・参加者からの多様な意見や質問に備え、市職員の配置は必要だと思います。円滑な議事運営のために。
- ・土曜日の開催はよいと思う。人数も10人程度だと意見が言いやすい。

問 11 市議会に期待することはどのようなことでしょうか。



市民との対話・意見交換が36.1%で最も多く、昨年と比べ政策の提言への期待が約8%増えました。

アンケートへのご協力ありがとうございました。

